



令和5年度 羽田中学校だより

# 天空の橋

令和5年9月6日号

目指す生徒像・・・

Heart  
Never Give Up  
Do Our Best

大田区立羽田中学校

## 将来につながる夢をもつために

おはようございます。まだまだ暑いですが、夏休みを乗り越え皆さんが、元気に登校する姿を見て、とてもホッとしています。

今日から2学期が始まります。2学期は、1年間でもとても大事な学期です。3年生にとっては、自分の努力によって、自分の進路・人生を決めることになる学期となります。その努力が、受験だけでなく、将来必要な自分の能力を伸ばし成長させます。よく、真ん中の2学期や、2年生は、中だるみの時期と言われます。しかし、先生はそうは思っていません。真ん中の期間は、大きく成長する期間だと思っています。ですから、3年生だけでなく1、2年生も、この2学期に大きく成長してくれることを願っています。では、成長のためには、何が必要なのでしょうか。もちろん、努力が必要なのですが、ただ努力しろと言われても、努力する気にはならないのが人間です。自分にとって意味がない状態なのに「努力しろ」というのでは、人はやる気ができません。「お前は、意味なんか考えなくていいから、とにかく働け」という会社はブラックな会社です。「同じように、お前は意味なんて考えなくていいから、とにかく勉強しろ」というのはブラックな学校かもしれません。努力をするためには、まず自分にとっての意味を見つけることが大事です。意味とは、「〇〇のために××をする」という〇〇の部分です。「××をする」意味は、「〇〇のために」という、自分にとって魅力があることを見つけることが大事なのです。学校は、将来の自分が幸せになることが目的の場所ですから、「〇〇」は、将来自分にとってなりたいこと、魅力があること、つまり「夢」をもつことが大事だということになります。「夢をもつことの大事さ」は前の校長、松井先生がいつも言っていました。まったく、その通りです。

しかし、中学生では「夢をもてと言われても、そんな簡単にもてないよ」という人も多いのではないのでしょうか。中学生は、自分のことがわかってくる時期です。小学生にとって、「自分は大リーガーになります」と卒業式で言うのは、あまり恥ずかしく感じない、普通のことです。でも、中学生になると「そんなに簡単に大リーガーになんかなれない」「日本のプロ野球選手だって厳しい」ということは見えてきます。すると、それを本気でなりたい夢とする、現実的な目標とは考えなくなってきます。つまり、夢がもてないという状態になってしまうのです。現実から離れた夢は、「あこがれ」といいます。中学生にとって、あこがれと、現実的な夢（つまり目標）とは違ってくるのです。「校長先生もジャニーズになりたい」と思っているかもしれません。それは別におかしなことではありません。でも、本気でジャニーズに入ってアイドルになることを考えはしないでしょう。「ジャニーズになりたい」はあこがれであって、現実的な夢ではないのです。これはおかしなことではなく、中学生にとって大きく成長した証しです。「あこがれはあっても」「現実的な夢・目標はない」。中学時代に、それに悩むのは普通なことなのです。

では、どうすればいいのでしょうか。3年生の皆さんは、既に具体的な目標があるはずですが、今はそれに向かって努力するしかありません。中学校を卒業してからの進路が決まるまで、まだ時間がある12年生の皆さんには、「今自分が楽しいと思っていることを突き詰めてやってみる」ことをお勧めします。バスケットボールが好きならばバスケットを、ゲームが好きならばゲームを、とことん突き詰めましょう。ただ、やるだけではなく、トレーニングなど必要な努力をして、自分の自慢になるくらい突き詰めます。やっていない素人には負けにくいくらいになることを目指します。運動やゲームだけではありません。趣味の世界を突き詰めるのはOKです。土曜日の夜、テレビの5チャンネル（テレビ朝日）で「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」

という番組をやっています。そこには、小中学生で自分の趣味を極めた「博士ちゃん」が登場します。「昭和歌謡博士」「調味料博士」「野菜博士」「味噌博士」「危険生物博士」……。その知識は、普通の大人ではとても叶わないものです。運動やゲームだけでなく、自分の趣味においてそういった「博士ちゃん」を目ざすのもOKです。そういった「人に負けない何か」「素人に負けない何か」が将来に結びつければ、こんなにいいことはありません。自分が楽しいと思うことで、将来暮らして行ければ本当に楽しいことでしょう。ただ、将来の自分のためになるようにするには、一つだけポイントがあります。それは、それをやることで、自分が楽しむだけでなく、他の人の役に立つかどうかを考えることです。自分が楽しんでバスケをやるだけ、ゲームをやるだけでは、将来それで暮らしていく、つまり仕事には結びつきません。自分がバスケやゲームをすることで、どうしたら人に役立つかを考えるのです。例えば、バスケットボールを練習して、プロになれるならば、お客さんが喜んでくれるのでOKです。プロのゲーマーでも同じです。ユーザーでもまったく同じです。プロになれるトップレベルになれるのならそれで将来が開けます。最近の日本のアスリートは非常に優秀です。そして、お客さんに喜んでもらうことが重要なことだとわかっています。だから、必ず応援してくれたことに感謝をしています。逆に、その気持ちがないとプロにはなれません。でも、プロになるなら中学校時代でも東京都でも名前が売れているくらいでないと難しいでしょう。ユーザーならば、クラスや学年の企画でみんなが面白がるくらいのことが出せない、ときっと難しいでしょう。現実的には、TOPレベルになるのは人数に限られます。だから、多くの人はどこかで、「TOPレベルになるのをあきらめる」こととなります。挫折を経験することとなります。でも、それでよいのです。「自分が楽しいと思うこと」「趣味」を突き詰めると、それまで知らなかった多くの知識が入ってきます。その道に関連する、関連する知識や、関連する仕事も見えてきます。そして、自分が「TOPレベルになるのは難しい」「プロになるのは難しい」「それで人の役に立つのは難しい」「それが仕事には結びつかない」と思ったならば、それに関連することで〈人の役に立つこと〉〈努力すれば実現しそうなこと〉を考えるのです。バスケットボールならば、選手をケアするトレーナー、子どもを教える指導者、マネージメントをするマネージャーでもいいかもしれません。ゲームならば、解説本を書く、ゲームをするのではなく作るほうになる、プログラムをつくるのが無理なら、企画とかデザインでもいいかもしれません。趣味を究めた「博士ちゃん」でも、知識が広がるといろいろなことが見えてきます。昭和歌謡から、歌詞の意味を考えたり、時代背景を知ることになったり、マーケティングのことも見えてくるかも知れません。それが、将来の目標に結びつくことは充分にありうるのです。「それがいいなあ」「それなら努力できるな」「努力すればなれそうだな」と思うものが見つかったら、それが「とりあえずの夢（目標）」となってきます。とりあえずというのは、自分が経験したり身につけたりする知識によって、なりたいたい夢も変化するのが自然だからです。中高生では当たり前のことであり、これも成長の証です。「とりあえずの夢（目標）」が見えてきたら、その夢（目標）を実現するそれになるために必要なことを考えます。最初にあげた、「〇〇になる。そのために××する」。このときの〇〇が「とりあえずの夢（目標）」、××が必要なことです。そして、その必要なことに向かって努力します。このときの努力は、もう、意味のないものではなくなるはずで、努力自体が、楽しいものになっているはずで、「〇〇になる。そのために、××をする。」それは、もしかしたら、筋トレかもしれません。やっぱり勉強かもしれません。

この2学期、そういった、ただのあこがれではない、現実的なとりあえずの夢をつくってください。そして、「××をする」という2学期修了までの目標を立てられるようにしましょう。自分にとって「意味のあることを見つけ、それに向かって努力する」そんな2学期になることを期待します。

